

びょういん癸

脳神経内科として新たにスタート

脳神経内科 医長 岡本 光生

非常勤体制で診療を行っていた神経内科でしたが、平成31年4月から常勤医3名体制となり、新たにスタートしました。診療科名については、これまでは「神経内科」が正式名称でしたが、心療内科や精神科と混同されることがある一方で専門医療を必要とする患者さんが適切な時期に受診できていないことが見受けられていることから、脳や脊髄、神経、筋肉の病気を内科的専門知識と技術で診療する診療科であることがわかりやすくなるように、日本神経学会の決定をうけて「脳神経内科」に変更しました。(岡本医長：中央)

脳神経内科は脳や脊髄、神経、筋肉の病気をみる内科です。体を動かしたり、感じたりすることや、考えたり覚えたりすることが上手にできなくなったときにこのような病気を疑います。症状としてはしびれやめまい、うまく力が入らない、歩きにくい、ふらつく、つっぱる、ひきつけ、むせる、しゃべりにくい、ものが二重に見える、頭痛、勝手に手足や体が動いてしまう、もの忘れ、意識障害などたくさんあります。このような症状をきたす原因を診断して治療するのが脳神経内科です。よく知られた病気として脳卒中、パーキンソン病、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症、てんかん、片頭痛、認知症があります(図)。その上で骨や関節の病気がしびれや麻痺の原因なら整形外科に、手術などが必要なときは脳神経外科に、精神的なものは精神科にご紹介することになります。感じるということには見たり聞いたりする能力も含まれ、眼科や耳鼻科の病気の場合もありますので、どの診療科に受診するのが最適かをご案内することもあります。

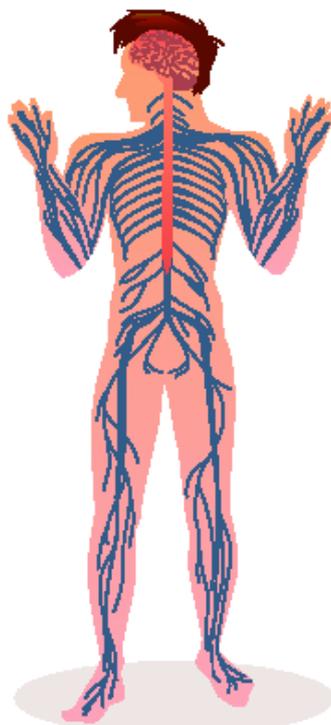
地域中核病院の脳神経内科として、急性期疾患には迅速かつ的確に対応して後遺症を最小限にとどめられるように、神経変性疾患には地域と連携しながら患者さんとその御家族がよりよく過ごせるように、一般的

な症状には専門的な判断で適切な医療をお勧めできるように、丁寧な

診療を心がけようと思います。よろしく願いいたします。

症状

- ・力が入らない
- ・歩きにくい
- ・しびれる
- ・ふらつく
- ・めまい
- ・頭痛
- ・手足がふるえる
- ・体が勝手に動く
- ・失神、けいれん
- ・しゃべりにくい
- ・もの忘れ
- ・ものが見にくい
- ・排尿障害



病名

脳・脊髄の病気

- ・脳卒中
- ・パーキンソン病
- ・多発性硬化症 (MS)
- ・頭痛
- ・てんかん
- ・筋萎縮性側索硬化症 (ALS)
- ・脊髄小脳変性症
- ・認知症
- ・髄膜炎

筋肉の病気

- ・重症筋無力症
- ・多発筋炎
- ・筋ジストロフィー

末梢神経の病気

- ・多発神経炎
- ・ギラン・バレー症候群
- ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 (CIDP)





* * * * *
子宮脱
骨盤臓器脱について
 * * * * *

産婦人科

上級医長

長谷川哲哉

骨盤臓器脱とは???

おもに閉経後に（若い方の発症も少ないながらもあります）、子宮を含めた骨盤内の臓器が膣に落ち込んでくる良性疾患です。落ち込んでくる臓器は①子宮：子宮脱と言います②膀胱：膀胱瘤③直腸：直腸瘤④小腸：小腸瘤（子宮全摘術後におこります）などでそれぞれが複合しておきていることが多くみられます（図1）。

妊娠や膣からの分娩経験がある方、肥満、閉経後、慢性の便秘症の方、腹圧を必要とする作業を日常的に行っている方に起こりやすいと言われています。アメリカの研究では、膣からの分娩を経験した女性の約50%が骨盤臓器脱の症状を有するというデータや、50代の女性の55%に何らかの骨盤臓器脱の症状があるとするデータもあります。

膣から何かが出てくる（膀胱や子宮頸部、直腸の落ち込みによります）といった症状を訴えられて外来受診をされる方が大半ですが、そのほかの症状として、尿が出づらい、尿が漏れるなどの排尿に関するものや、骨盤の痛み、時に便失禁などを引き起こすことがあります。

予防方法として、また、ごく軽度の骨盤臓器脱症状がある方については、骨盤底筋体操（ケーゲル体操）を行うことによって骨盤底の筋肉を強化することが勧められます。インターネットで検索を行うと様々なサイトで取り上げられています。

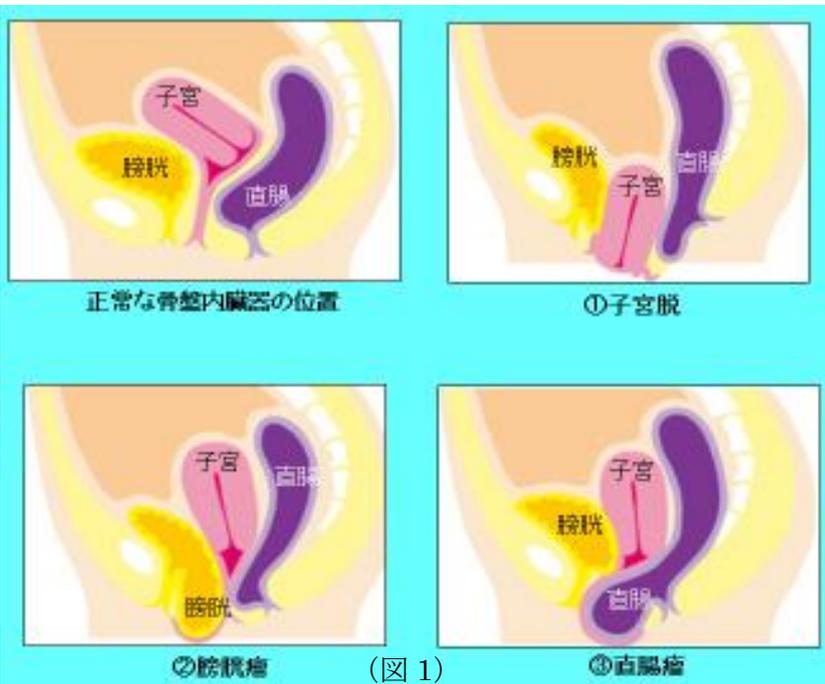
残念ながら臓器がすでにある程度落ち込んでしまった方については、症状緩和を行うためには治療が必要となります。

手術を行わない治療では、膣内にリング状のペッサリー（図2）を留置する方法や下着型の装具で出てきてしまった臓器を持ち上げる方法などを外来で行っています。

手術については、“膣閉鎖術（膣を閉鎖する方法）”、“膣式子宮全摘、膣形成術（膣から子宮を摘出し膣壁を補強する方法）”などが以前から行われてきました。近年では、子宮をもとの位置に戻すという考えから、腹腔鏡でメッシュを留置する“腹腔鏡下仙骨膣固定術（LSC手術）”や膣からテープ状のメッシュを留置する“TFS手術”などを行っております。当院産婦人科では、ご本人様の他の病気の状態や、性交渉の有無など

の日常生活を考慮して適切な治療をご提案させていただいています。

何か気になる症状があるようでしたら、ぜひご相談ください。



(図2)

診療放射線科
主査
首藤 宣昭

リニアックについて 放射線治療品質管理士とは



装置更新のため昨年秋から休止していた放射線治療が4月より再開しました。今回は、その放射線治療装置：リニアック（図1）と装置の管理を行う放射線技師についての話です。

2月号で導入される装置の概要の説明がありましたが、いよいよ臨床稼働し始めました。リニアックは、メーカーが設置を終えると受け入れ試験というテストがあり、このリニアックがメーカーで定めた基準に収まっているということと一緒に確認します。それが終わった時点から装置を管理する責任は私たち病院職員に移ります。私たちは基準値内にある装置が、実際に治療を受ける患者さんに正確な位置、線量、範囲に照射できるように、詳細にデータを測定、登録、検証等を行う必要があります。この準備をコミッショニングといい、少なくとも2~3か月かかります。今回の更新は1月に受け入れ試験があり、2月初旬から3月末にかけてコミッショニングを行いました。

最新の装置だから何でも装置が自動でやってくれて技師は誰でも簡単に扱うことができる、ということは残念ながらありません。確かに高い精度で照射できるようになり複雑な照射も行えるようになりましたが装置の扱いを間違えると大きな事故を起こす可能性があります。リニアックは1度更新すると10数年使用します。その間に装置の性能は日進月歩で進化します。それに対応できる専門家を育成するために放射線治療の分野には放射線治療品質管理機構という団体があり、認定を受けたものを放射線治療品質管理士といいます。放射線治療品質管理士は、放射線治療専門放射線技師あるいは医学物理士が、病院等で放射線治療装置の品質管理を1年以上行った者が試験に合格して持つ資格です。（図2）

放射線治療専門放射線技師や医学物理士になるにも試験があります。毎日、患者さんに正確に照射できるように日ごと、月ごと、年ごとに項目を分けて測定し性能維持のために装置を管理しています。



図1 当院の放射線治療装置（リニアック）

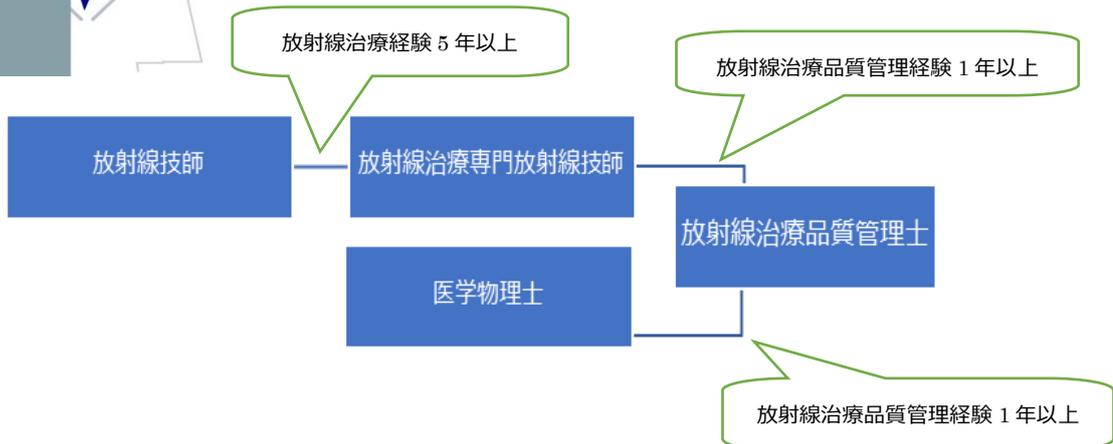


図2 放射線治療に関わる技術者の資格



院内デイケアで気分転換しましょう

看護師 山下優子



入院生活は、住み慣れた環境から一変してしまいます。高齢者にとって急な環境変化は、わけが解らなくなってしまう事もあります。ましてや、長い入院生活になってしまうと、刺激が少なくなり、昼夜逆転したり、食欲がなくなったりします。

看護部では入院患者さんを対象に、昨年の6月から院内デイケアを行っています。デイケアの場所は、少し生活感を垣間見る『5階のふれあい室』で、週1回、1コマ45分間として2回行っています。病室とは違う部屋に訪室されると「まあ、いい部屋ですね。この部屋は初めてです」などの会話から始まります。皆で自己紹介をし、やりたいことの希望を聞き、塗り絵やパズル、お手玉、あやとり、会話などを楽しみます。一番の人気は会話です。若い頃の話、戦争について、疎開先のことや食料困難時期のこと、自分が苦労したことを切々と話されます。お話が止まらない方もおられます。1回に2~3名の方が参加されますが、認知症の方もいれば、他の方を気遣って声をかけてくださる方もおられます。年代も一緒だと「そうそう」と相打ちを打ちながら笑い声や笑顔がよく見られます。

そんなデイケアで、私が一番心がけていることは、その人の持っている力を大切にしていくことです。お話が出来ることはすごいことです。伝える力があるので、認知症があっても、子供の頃に遊んだお手玉やあやとりは覚えておられます。デイケアで感じる事は、まだまだ残されている機能や可能性があるということです。

入院生活でのわずかな時間ですが、参加された患者さんのストレスを発散し、気分転換になり、治療に専念できればと願い、デイケアを担っています。



4階東病棟

助産師

藤井律子

外国人妊産婦さんの受け入れについて

~ベトナム人の妊婦さん対象の妊婦教室の開催~

外国人労働者の受け入れ拡大に伴い、定住する外国人の方の増加が見込まれています。大和市立病院の近隣においても同様な傾向にあります。このような背景から日本で妊娠・出産・育児を経験する外国人の方も増えています。大和市立病院ではベトナム語、スペイン語を中心とした通訳担当者の配置（曜日指定あり）や外国語の保健指導用のパンフレットの検討、作成、外国人の妊産婦さんへの個別指導に取り組んでいます。

今回、妊娠・出産・育児を切れ間のない継続支援を行っていくため大和市こども部、大和市国際化協会、かながわ国際交流財団と連携し、当院で分娩件数の多いベトナム人の方への集団保健指導（妊婦教室）を実施しました。実施にあたっては不安もありましたが、妊婦さんご本人だけでなくご夫婦で参加して下さる方もおり、和やかな雰囲気で行いました。（プログラム下記参照）通訳の方を通してゆっくりとコミュニケーションをとりながら、入院する際の電話連絡の方法や分娩室や病室の見学など、実際に即した内容で展開して行きました。今後も多くの外国人の妊産婦さん、ご家族の継続支援に貢献できるよう務めていきたいと考えています。



♪妊婦教室プログラム♪

【担当】

- ・大和市立病院 助産師
- 1. 妊娠中の食事のポイント
- 2. 妊娠糖尿病とは
- 3. 妊娠中の体重コントロール
- 4. お産の仕組み
- 5. 入院の時期
- 6. 入院時の連絡の仕方

【担当】

- ・大和市こども部 保健師
- ・大和市国際化協会担当者
- ・かながわ国際交流財団担当者
- 7. 地域の保健師さんとは？
保健センターの役割
- 8. 相談先の確認
- 9. 各種相談（各担当者）

【担当】

- ・大和市立病院 助産師
- 10. 病棟見学
- 11. 入院時の持ち物・
お産セットの内容
- 12. 夜間受付にて夜間の
入院について説明